

伝わる言葉★ 伝わる愛♥

母から子への 手紙

3

猪苗代町

猪苗代町絆づくり
実行委員会



幻冬舎

母から子への 手紙

③

江苏工业学院图书馆
藏书章



伝わる言葉 伝わる愛
母から子への手紙 3
2005年 4月25日 第1刷発行

編 者 猪苗代町 猪苗代町絆づくり実行委員会
発行者 見城 徹

発行所 株式会社 幻冬舎
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話:03(5411)6211(編集)
03(5411)6222(営業)
振替:00120-8-767643
印刷・製本所:中央精版印刷株式会社

検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。小社宛にお送り下さい。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。定価はカバーに表示しております。

©INAWASHIRO-MACHI, GENTOSHA 2005

Printed in Japan

ISBN 4-344-00778-6 C0095

幻冬舎ホームページアドレス <http://www.gentosha.co.jp/>

この本に関するご意見・ご感想をメールでお寄せいただく場合は、
comment@gentosha.co.jpまで。

母の愛 遙かな海のごとく

選考委員 エッセイスト 大石邦子

今年も、たくさんのお母さんの手紙を読ませていただいた。『母から子への手紙』である。たった一枚の原稿用紙にこめられた母の愛が、遙かな海のように、私たちの胸深く落ちて、熱い感動を呼び覚ます。

母の言葉は、どうしてこんなにも胸にしみるのか。心騒ぐのか。癒されるのか。魂に直接ひびく哀しみがある。

この世には、ひとの数だけ喜びがあり、悲しみがあり、どうにもならない現実打ちめされることも、あるかもしれない。苦しみだと思っていたものが、気がついたら、幸せの土台になっていたということだって、あるかもしれない。

オセロゲームの駒のように、悲しみの涙が、一つひとつ喜びの涙に変わっていく。そん

な人生を思わせる作品に出会うとき、頭を垂れずにいられなかった。勇気づけられた。

今年も、重い現実を生きているお母さんの作品が多かった。しかし、苦しみに打ち負かされてはいない。そこから立ち上がり、闇を突き抜けた強靱さ、明るさが、心を打つ。

そして何より、今年の特徴は、ほのほのとした作品がたくさんあったということである。若いお母さんの応募も多かった。

大賞を受賞したのは、そんな一つである。特別なことがあるわけではない、さりげない日常の一コマを切り取って、素敵な作品にしていた。素朴で、あたたかで、まだ出来たての若い家族の、おもしろおかしい親と子の会話である。嬉しくも、心和まされた。

準賞は、身の引き締まるような、厳しい現実を引き受けたお母さんの作品である。私は立場を忘れ、心のなかで語りかけていた。

「お母さん、あまりご自分を責めないで下さい。子どもの障害は、お母さんの罪などではありません。誰の罪でもありません。お母さんがご自分を責めるとき、子どもはもつと辛くなります……」ひとごとに思えなかった。

素晴らしい川柳で、子どもへの愛を綴った作品もある。文学的には最も優れていた。

行方のわからないわが子への、切なる母の叫びもあった。断絶の子への呼びかけもある。聞こえて欲しかった。

夫婦で息子自慢をする楽しい作品。少子化の問題など何も心配することはない、と思わせられる大家族の明るい述懐。新鮮な言葉で「ライオンの母にはなれない」とつぶやくお母さん、等々。母の心に点数はつけ難く、素敵な作品が並んでいる。

審査する立場としては、あまり作品に近づき過ぎないほうがいい。ただ、この手紙コンテストの場合は、他の文学賞の審査とは少し異なり、そこに痛々しいまでの母の愛が脈打っているのを感じるとき、思わず祈りにも似た思いにとらわれてしまう。

母と子の幸せを祈らずにはいられない。

家族の絆が深まることを願わずにはいられない。

文学的な優劣を超えて、先ずは、母と子が、家族が、愛と信頼のなかで幸せに暮らして欲しいと切に思う。ここには、その雛形がある。

伝わる言葉 伝わる愛 母から子への手紙3 ◎目次

母の愛 遥かな海のごとく 選考委員 エッセイスト 大石邦子…………… 1

ポカポカの笑顔…………… 10

光と引きかえに…………… 12

十二時の電話…………… 14

初めての給料日…………… 16

枕のにおい…………… 18

赤い三重丸…………… 20

社会人になる君へ…………… 22

大家族…………… 24

自慢の息子…………… 26

世界一幸せな母さん…………… 28

大人の顔…………… 30

母親修業…………… 32

ライオンの母…………… 34

力の源…………… 36

父の職場…………… 38

お兄ちゃんなんだから

なんて言わないよ…………… 40

おまえの帰りを待つてます…………… 42

何もしてあげられなくて…………… 44

二方通行の愛…………… 46

生まれ変わる事が出来るなら 48

親としての喜び 50

お母さんの膝は誰のもの? 52

お父さんのお母さん 54

顔を見るだけで 56

あなたらしいあなたで 58

旅立った。パパ 60

神様へのお願い 62

いつまでも現役 64

空クジなしの福袋 66

うちの桃太郎 68

与えられた命 70

二人三脚 72

君のいる場所 74

耳から離れない言葉 76

いつでも部屋は、あけておきます 78

人間が好き 80

壊れる時 82

内弁慶ちゃんへ 84

借りたものは返しなさい 86

私が守る 88

生きている限り 90

鬼ババだでな 92

良い子 94

会いたい 96

地球の反対側に行つても 98

一生分の幸せ	100
一筋の涙	102
生まれてくれて、ありがとう	104
五つのカボチャ	106
確かな愛	108
ありふれた日常	110
親孝行	112
どんなに憎らしくても	114
また会える日まで	116
どつちが好き?	118
一生物	120
あなたに伝えたい	122
生きる意味	124

命を助けて下さい	126
天からの預かり物	128
感謝	130
返事のこない手紙	132
はじめてのおつかい	134
帰つておいで	136
娘の成長	138
私が死ぬ時	140
話してごらん	142
ホームシック	144
母である事を止められない	146
ずっとそばにいるよ	148
負けました、熊本さん	150

ありがたい	152
親孝行	154
はーちゃんをよろしく	156
ごめんね	158
無理をするな	160
笑顔	162
母ちゃんを睨む目	164
あなたの選んだ人	166
ずっといっしょ	168
ささやかな願い	170
生の終章に在つて	172
応援、	174
子育て川柳	176

帰つておいで	178
生きる理由	180
僕のこと好き?	182
空白の時	184
久し振りの笑顔	186
話したい	188
母の願い	190
野口シカの手紙	192
あとがき	194

装幀 上田晃郷
装画 アートバンク
本文デザイン 宮村ナオミ

伝わる言葉 伝わる愛

母から子への手紙 3

ポカポカの笑顔



もうすぐ二歳になる姫こひめは、いろいろお話が出来るようになってきましたね。郡山の街中まちなかで暮らしているのに、ママもパパも田舎育ちいなかのせいだから、姫の話す言葉はなまっているよ。

食事をすればレストランであろうが、「んめー」と大声で言うし、いらないうて言葉も「いんねー」って言うし、おもちゃが壊れてしまった時も「ぼっこっちゃー」って言うね。

人前だとパパもママも恥ずかしいけど、まだ姫は小さいから、「かわい

いねー」って言われて終わっちゃうね。だんだんと直していこうね。

でもね姫、パパとママの前でならいっぱいなまっても通じるし、ママは方言ほうげんって大好きだし、大切って思うんだ。

だからママの言葉がパパに通じない時があるくらい、ママの方がなまってるでしょう。姫の顔もママ似の田舎顔だし、その姫の顔から生まれる笑顔は、方言ととってもあってる。

いつまでも田舎の太陽みたいにポカポカ笑っていて下さい。

福島県郡山市 赤沼優香 23歳

光と引きかえに



命が助かっただけでも……そう思い込もうとしても、君が一生背負う障害は重すぎるね。

突然の破水による三カ月早い出産。生後四日目に胸、数日後お腹、そして眼と今までに八回もの手術に耐えて、本当に頑張ってるね。何度も死の淵にたった君に、神様は光と引きかえに命を授けてくれました。強い命を。君は何を感じてるの？ 君の真つ暗な世界を考えると、胸が苦しいよ。

望まれた君の誕生に後悔はないけど、ただ、五体満足に産んであげられな

かったことは、お母さんの一生の罪です。ごめんね……。

雪が降り始める頃、君の一歳の誕生日。元気になって退院できるといいね。そう、皆の匂いがするお家こそが君の本当の居場所だよ。

この先、私達家族には乗り越えなければならぬハードルが沢山あるでしょう。いつか生きていて良かったと思ってくれるように、お母さん達も頑張るよ。

君への罪が報われるその日まで……。

福島県安達郡 渡辺博美 33歳

678グラムで生まれた長男。眼の手術を3回受けましたが、良い結果は得られず光さえも失いました。今後の手術と将来の不安、謝罪、祈りの毎日です。

十一時の電話



「カチッ」と音をたてて時計の針が十一時をさす。と同時に、「おやすみ」と言つて寢室にひきあげる夫。

今日もベルは鳴らなかつた。全寮制の高校に入学した息子は、用のある時だけだけれど十一時に電話をかけてくる。——たよりのないのは無事のたよりか——と今夜も言い聞かせて、今日も一日無事に終わる。

「こわい親父」の一言で父を語るあなたには「こないじらしいジツと電話を待つお父さんの姿」想像もでけへんやろ。